県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

# 地域連携センター報

Vol. 4

COMMUNITY LIAISON CENTER

平成19年2月16日発行

県立広島大学地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

## 相次ぐ包括協定の締結

### 安芸高田市

平成19年1月16日，本学は安芸高田市との間で包括的連携・協力に関する協定を締結しました。本学と安芸高田市との関わりは，前身3大学が主催したシンポジウム「地域を支える組織とひとびと」（平成16年12月）から始まっており，今回の締結の特色も，住民自治活動の育成や農業振興などです。今年度も地域づくりを考え，地域をみなおす講演や講座を実施しています。

### 廿日市市

平成18年11月10日，本学は廿日市市との間で包括的連携・協力に関する協定を締結しました。廿日市市とは，本年度文部科学省に採択された「宮島」を対象とする人間文化学部の「現代的教育ニーズ支援プログラム（現代GP）」について共同で取り組むほか，「中山間地の振興」や観光，環境，生涯学習，保健福祉など，まちづくりの推進と課題解決に連携協力します。

### 広島県商工会連合会

平成18年10月13日，本学は広島県商工会連合会との間で連携・協力に関する協定を締結しました。商工会連合会と公立の大学が協定を交わすのは全国初で，今後は連合会の地域ネットワークを活かし，巡回相談会，テーマ別研修会，連合会の人材育成，大学のシーズ紹介などに取り組んでいきます。

# 広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

## 産学連携

### 中国地域の金融機関取引先企業と大学・高専窓口との産学交流会

11月27日，メルパルク広島に於いて，中国地域産学官コラボレーションセンター主催の産学交流会が開催され，本学からは地域連携センターの３名が参加しました。

事例発表に続く相談会では，食品，情報通信，産業廃棄物処理，製材，物流など11企業と個別面談を行い，本学のシーズを紹介しました。

## 講演会・シンポジウム

### 連携講演会「楽しもう絵本の世界」

９月21日，ひろしま美術館の特別展“創刊50周年みんなのともだち「こどものとも」の絵本展”にちなみ，連携講演会を開催しました。

講演の内容は猪木省三国際文化学科教授による「絵本と子どもの発達」と，水木祥子ひろしま美術館学芸員による「はじめての美術～絵本の魅力」で，若いおかあさん方を中心に約200人の参加がありました。

なお，講座の報告はホームページに掲載しています。

http://www.pu-hiroshima.ac.jp/investigation/ex_lecture/18/ehon_fin.html

### シンポジウム「食は健康の礎なり」

11月12日，本学教員，大学院生のほか，小学校，食品開発など，さまざまな立場の講師を招き，食育に関するシンポジウムを開催しました。

講演やパネルディスカッション，会場との活発な質疑応答を通して，子どもたちが健康な生活を維持していくために何をすればいいのか考えました。

## 公開講座

### 「ポジティブ・ケアプラン作成に役立つコミュニケーション・トレーニング」

11月11日と18日，金子 努人間福祉学科教授が講師を務め，介護支援や高齢者ケアに従事する専門職の方を対象に公開講座を開講しました。

実習を伴う講座は好評で，受講者からは継続の希望も寄せられました。

### 「健康寿命をのばす　ー生き生きと毎日を過ごすためにー」

健康寿命とは，「あと何年，自立して生き生きと健康に暮らせるか」という積極的な寿命のとらえ方です。

11月25日，このテーマのもとに，調理，栄養学，運動の領域で，人間文化学部健康科学科の教員が講義と実習を行いました。

| | |
|---|---|
| 食べることは生きること。「赴粥飯法」の心でいただく。 | 杉　山　寿　美 |
| 生き生きと過ごすための栄養学 | 栢　下　　淳 |
| 健康寿命をのばす「ストレッチング」と「筋力アップ体操」 | 三　浦　　朗 |

受講生の年齢層は20代から70代まで幅広く，和気藹々と講座を楽しみました。

### 連携講座（シティカレッジ）「厳島の歴史と文化 ～宮島の魅力再発見～ 第二章」

広島市まちづくり市民交流プラザで，世界遺産登録10周年を迎える厳島をテーマに公開講座を実施しました。人文学を専門とする教員が，個々の研究分野から厳島に関する最新の研究成果を紹介しました。この講座は申込開始日の午前中で定員に達するなど，開催前から市民の関心が高く，受講者数は平均89名，延べ355名の方が受講され，うち93名の方に修了証をお渡ししました。今後も同様の企画を望む声が多く寄せられました。

| | | |
|---|---|---|
| 11/11 | 厳島合戦を再考する | 秋山　伸隆 |
| | 厳島の舞楽に見る中古アジアの文化交流 | 柳川　順子 |
| 11/18 | 毛利氏と厳島 | 本多　博之 |
| | あこがれを形にする ～平家納経成立の周辺 | 西本　寮子 |
| 11/25 | 厳島神社と石見銀山 | 秋山　伸隆 |
| | 中世における厳島信仰と法華経 | 樹下　文隆 |
| 12/ 2 | 厳島町衆の活躍 | 本多　博之 |
| | 絵画から見えてくるもの | 天野みゆき |

# 研　究　紹　介

## 世代ごとの食育を考える

人間文化学部健康科学科　助教授　岩　本　珠　美

食・栄養に関する情報が多く発信されていますが，食生活に関わる生活習慣や意識等の指摘も必要です。保育園に通う園児では就寝時間が22時前後と遅い子どもが多くみられます。また，若年女性の低体重者の増加が問題となっていますが，高校生の女子では，痩せている人のイメージとして「かわいい・おしゃれ」を挙げている人が多く，マスメディアの影響が大きいことが伺えます。若年者の食生活の乱れは環境にも影響され，保護者・家庭を中心に社会全体で食育を行う必要があると思われます。

40歳～74歳男性では，動脈硬化性疾患の危険率が高くなるメタボリックシンドロームの有病者25.7%，予備群26%であることが昨年，厚生労働省より示されました。動脈硬化予防として，抗酸化物の研究では，一つの食品や成分での見解が多いですが，相乗効果を期待し多様な食品を少しずつ摂取することが良いと思われます。動脈硬化性疾患では脳梗塞の割合が増えており，予防と早期治療を啓蒙する必要があります。

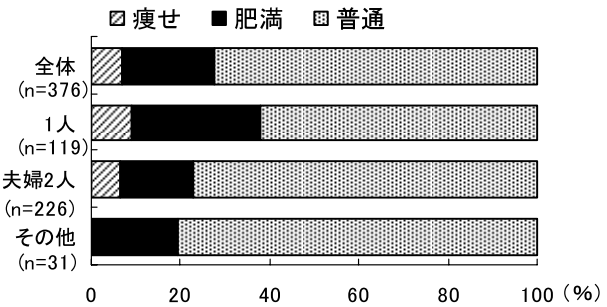



図　高齢者世帯における家族構成別にみた体格

高齢者では生活習慣病の人がみられる一方，低栄養も問題となっています。独居高齢者では高齢者二人世帯よりも「肥満，痩せ」の割合が多くみられている地域もあります(図)。調査可能な高齢者対象ですが，痩せの人たちでは，健康状態が優れない人の割合が普通体格の人よりも多くみられ，「地域での見守り」が言われています。

医療費の増大が問題となっている現在，世代ごとの食育を考え対処することが重要です。

## 不確実な現象の解明が研究テーマです

経営情報学部経営情報学科　教授　生　田　　顕

突然，襲って来る地震や竜巻などの自然環境，さらに，株価の変動や内閣の支持率，退職後の年金といった社会・経済現象など，私たちの周りには不確実なことばかりです。このように不規則で不確実な現象を，情報学的立場から解明することが私の研究テーマです。

そのためには，現象をモデル化することがまず必要です。あらゆる現象は必ず数式で表現できます。そのときの立役者は確率論とファジィ理論です。前者は主に物理現象をモデル化する際に，後者は人間の主観性を数式表現する際に役に立ちますが，これらはあくまで道具です。

何より重要なことは，現象にまっすぐ向き合い全神経を集中させて現象の身になって（立場になって）考えることです。そうすると，この因子，あの要因の揺らぎの法則が頭に浮かんできたり，それらの因子間に存在する低次や高次の相関情報が，（目には見えませんが）感じられるようになります。それをすばやくノートにメモをとることから研究は始まります。繰り返しになりますが，こうしたいという私たちの欲望を優先させるのではなく，あくまで現象の立場になってまず考えることが重要です。そうすると，必ず答えが返ってきます。

このようにして完成させた自信作に対し，これまで３つの国際会議で招待・基調講演を行う機会を与えていただきました。

今，最も興味を持っているテーマは逆問題（結果から原因を推定する信号処理法）と不確定性（複数の同時に存在し得ない）関係に対する情報処理法です。ディジタル通信や機械の異常診断といった情報・生産技術のみならず，音環境や電磁環境などの環境保全に応用できます。(写真は音響信号情報処理に関する実験風景の１コマ)

# 庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

## 学術講演会

### 見えない世界を見て触る
### ナノテクノロジーで探るバイオの世界

農業・食品産業技術総合研究機構の大谷敏郎先生による学術講演会が11月17日に開催されました。走査型プローブ顕微鏡（SPM）を用いた食品や生体試料のナノメートル（0.000000001m）レベルでの観察と解析手法についてのご講演でした。

20年ほど前に開発されたSPMの仲間である原子間力顕微鏡（AFM）は，特別な前処理を必要とせず，生体試料の「生」の状態を直接観察できる顕微鏡です。AFM観察例として，デンプンの超微粒子（粒径数十nm）が連なったシングルクラスター構造，溶液中の植物細胞のセルロース繊維束，セルロースのセルラーゼによる資化過程，食品添加物用噴霧乾燥粒子の表面構造，プロセスチーズのカゼインミセルなどが紹介されました。

また，形状像と蛍光像が同時観察できる走査型光プローブ顕微鏡（SNOM/AFM）の観察例として，遺伝子を蛍光標識したDNAや染色体の観察（ナノFISH法）について紹介されました。

さらに，現在開発中である，AFMの探針を利用した染色体からゲノムを切断・回収し解析する技術（SPMダイレクトゲノム解析法）や，溶液中観察のための探針や制御法などについて紹介され，将来，食品や生体試料をより精密に解析できるとまとめられました。（生命科学科　吉野　智之）

## 市民公開講座

### 庄原の生活を見つめる ～食べる，暮らす，育む

本学と庄原市教育委員会との共催による市民公開講座を，９月29日から10月31日にわたって，５回シリーズで実施しました。生活の場に視点をおき，より充実した暮らしを実現していく方策を考える本講座は，前期のシリーズ同様，毎回50名ほどの参加者があり，盛会裏に終了しました。

| 回 | テーマ | 講師 |
|---|---|---|
| 1 | しっかり食べて，元気な高齢者に | 栢下　　淳 |
| 2 | 食と生活リズムこそ健康の要なり ～なぜ食育が注目されるのか？ | 加藤　秀夫 |
| 3 | 体を動かして健康づくり | 塩川　満久 |
| 4 | 本当は怖い腰の痛み・膝の痛み | 沖　　貞明 |
| 5 | コミュニティビジネスと地域づくり | 黒木　英二 |

## 大学公開講座

### 脳卒中の病態と予防

秋の行楽シーズンのまっただ中の10月15日に公開講座「脳卒中の病態と予防」が三次ワイナリーで行われました。この講座は，県北で医療保健福祉系の専門職を対象にした講座を行いたいとする庄原キャンパスが企画し，専門知識を有する三原キャンパスが講師を務めるという，まさに連携の中で行われた講座です。参加者は47名。県北で初めての講座でもあり，専門職の方が多く参加しました。脳卒中というと，最近では生活習慣病のひとつとして位置づけられています。また，介護保険の施行により施設で生活するのではなく，自宅で生活しながら介護を受ける方も多くなりました。講座では，脳卒中の予防や病気の解明がどこまで進んでいるのか，回復や介護にはどのような取り組みがなされているのか，を三原キャンパスの専門家５名が講義を行いました。参加者は熱心に聴講し好評裏に終了しました。（作業療法学科（三原）西上　忠臣）

## 産学官連携

### ◆第5回元気な地域づくりセミナー

しょうばら産学官連携推進機構と庄原地域連携センター主催による「第５回元気な地域づくりセミナー」は10月27日，庄原キャンパスにおいて64名の参加者を得て開催されました。今回のテーマは「語り合おう！ 地域自主による振興の方法 ～熊本県における実践事例報告を中心話題にして」でした。

徳野貞雄熊本大学教授は，村落の現状を住民自身

がよく知ることが大切であること，そして自分の家族がいざというときに最も頼りになるから，近くに呼び戻すという発想がこれからの村落振興の基本になると力説されました。

それを受けた沢畑 亨水俣市久木野ふるさとセンター愛林館長は，意識の高い都市住民を愛林館の活動に組み込んでいく中で，森と棚田を柱とするエコロジー協働に次第に積極的になっていった地域住民の様子を多くの実践場面の写真を使って紹介されました。会場からも次々と質問や意見が示され，散会の時まで具体的な行動についての熱い語り合いが続きました。（環境科学科　前川　俊清）

### ◆シーズ紹介イベント

今年度，庄原キャンパスにて本学のシーズ紹介事業を２回実施しました。まず，本学が構成員となっている三次イノベーション会議の第５回産学官連携セミナーとして，10月６日に約30名の参加者のもと実施しました。三原キャンパス，広島キャンパスから各１名，庄原キャンパスから３名の教員がシーズを紹介しました。

次に10月31日には三原地域連携推進協議会の第３回三原産学官交流セミナーとして，やはり30名近い参加者のもと実施しました。まず江頭生命環境学部長が生命環境学部のシーズについて紹介をし，その後，３名の生命環境学部教員がシーズの紹介を行いました。

## 国際交流

### 四川の農業発展のために

生命環境学部　客員研究員　胡　　健

私は2006年9月から11月下旬まで生命環境学部の客員研究員として滞在しました。中国では，四川省にある中国西南科技大学経済管理学部で教鞭をとっています。

これまで四川盆地の農業を研究対象に，干ばつへの対策，果物の商品としての競争力の向上，農業組織の問題などについて研究を行ってきました。現在は，国家，省，市レベルの様々なプロジェクトに参加しています。例えば，四川省農民の収入力の改善，持続可能な農業生産の方策などで，それらの研究のなかには省や市からも高く評価されているものもあります。

今回の研修では受け入れてくださった藤田 泉教授の親身なご指導のもと，日本の現代農業発展の政策，農協の実態，環境保持の問題について研究を行いました。日本の農業のレベルの高さ，政府の農業政策やその指導重視，財政的支援の大きさ，環境に配慮した農業発展の試み，機械化による効率性の高さ，就業者の高齢化や，自給率，国際競争力の問題などを学びました。

今後は研究の充実だけでなく，日中友好の架け橋になっていきたいと思っております。

## 研究紹介

### 血塊分解の機構解明

生命環境学部生命科学科　教授　山　田　　學

私の研究目的は，血塊分解（線溶）の機構解明と，血液の流動性を制御する技術を手に入れることです。血液の固形分は98％以上が赤血球ですから，血塊の観察で見えるのは赤血球とフィブリン（血液凝固の原因タンパク質）がほとんどです。血塊を再び流動的にするにはフィブリンを分解（線溶）する必要がありますが，これほどフィブリンに近接し，多量を占める赤血球と線溶との関係を示す報告はほとんどありませんでした。我々は当初ウシ血液で試験し，血栓溶解酵素プラスミンやt-PAの増強効果を認めました。

現在，この効果がヘモグロビン（Hb）の一部（図のリボン部分，LH25と仮称）にあることを確認し，合成品を作って特許申請まで進めましたが，今後はこれを引き受けて商品化する企業の協力が必須です。９月13～15日には地域連携センターの協力を頂き，JSTとNEDOが主催するイノベーションジャパン2006に出展，38,000人以上が来場する中で，多くの企業や研究者と我々のシーズを話題に情報交換しました。

（ヒトのヘモグロビン β 鎖中のLH25部位（リボン部）とその合成品のアミノ酸配列））

## Shobara Topics

▼12月15日に公開シンポジウム「統計から見た広島県農業」を開催。大盛況。▼春に向け，講座予定も続々と。詳細はホームページにて。▼新企画に乞うご期待。

| | |
|---|---|
| 3月上旬 | 英語生涯学習講座（3週連続。1, 8, 15木曜日） |
| 3月13日 | 改正介護保険制度下の施設ケアマネジメント |

# 三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

## 産学連携

平成18年７月13日，県立広島大学としまなみ信用金庫は，地域社会の発展に寄与するため「連携・協力に関する包括協定」を締結。最初の取り組みとして，９月から月１回全６回の産学連携講座「バイオビジネスを考える」を開催いたしました。

景気は順調に回復している旨の報道もありますが，地方の中小企業事業者にあっては，売上受注量の減少等で，収益確保がままならず，また，異業種参入するにも，人的及び技術的にも難しい状況下にあります。当信用金庫は，「地域密着型金融の推進」の一環として，大学の保有する知識を地元のお客様に還元していただき，起業や新規事業の助成につなげていきたいと考えております。

定員30名の聴講者は，当庫の取引先がほとんどで，「バイオテクノロジーとその事業化への展開」をテーマとする最新の講義内容が，いかにビジネスにつながるかを重要視されております。

次年度以降も，大学の指導・支援を受けながら，環境問題・保健医療福祉・地域産業の活性化等のテーマで実施してまいりたいと考えております。

（しまなみ信用金庫　営業統括部）

## 第7回学術大会実施報告

「ヘルスプロモーション（健康づくり）に挑む」のテーマを掲げ，広島保健福祉学会第７回学術大会を11月11日（土），三原キャンパスにて開催致しました。前半の特別講演では，この分野の第１人者である愛媛大学医学部附属病院医療福祉支援センター長の櫃本真聿先生から，住民主役の健康づくりとまちづくりについて，ユーモアを交え，示唆に富んだお話しをして頂きました。後半の実践報告では，寄光，水馬，辻下，安本の各先生から，行政，保健師，理学療法士，作業療法士，それぞれの立場で健康づくりの取り組みについて報告して頂きました。参加者は学外を含め86名で，多くの方々より，特別講演，実践報告いずれも，楽しかった，分かりやすかった，役立つ内容であった，知人に紹介できる内容であった，等大変好評でした。今回の企画がヘルスプロモーションに対する理解を深め，これからの教育・研究・地域貢献を進める際の手がかりとなったものと思われます。（大会会長　近藤　敏）

## 三原市からの研究助成事業による研究紹介

### 肥満調査･肥満予防プログラム策定に向けた日常身体活動と肥満指標解析

保健福祉学部 看護学科
教授 堂 本 時 夫

平成18年度三原市県立広島大学研究開発助成事業の採択を受け，研究課題「肥満調査・肥満予防プログラム策定に向けた日常身体活動と肥満指標解析」に取り組んでいます。今回の研究全体の方向は，①日常の身体活動や運動と肥満指標との関係について地域住民を対象としたデータから分析し，②それらをもとに肥満予防や減量のためにどの様な計測項目を対象として日常生活における身体活動・運動の改善をすべきかについて整理し，③地域や事業所などでの肥満予防対策に役立てていくこと，を目指しています。この事業の採択が７月であったために，現在はまだ①の段階を進めているところで，市報で募った女性の研究協力者に10月から12月の２ヶ月間日常身体活動の記録と，その前後の体脂肪率などを計測しています。幸いにも皆様の関心も高く，熱心な取り組みとご協力をいただいています。我々も皆様の熱意に負けないようデータの解析などに日夜追われております。今回の研究で得られる結果と手法をより広範な地域の人の健康生活を目指す活動に広げていきたいと考えています。

写真：中国新聞社提供

## 地域連携

### 三原シティカレッジ‘06
### 市民講座『日本語名人へ，はじめの第一歩』

毎年1,000人を超える参加者があり，市民の方には，

すっかりおなじみとなった「三原シティカレッジ」が，今年も開催され，参加者は1,600人を超えました。

市民向け講座の一つとして，RCCラジオ「きょうもゴゴイチ」のパーソナリティー本名正憲氏(RCCアナウンサー)に「日本語名人へ，はじめの第一歩」と題する講座を２回お願いし，その第一回目を大学祭の企画として組み込みました。

本キャンパスの大学祭「浮城祭」は，11月18日～19日にかけて開催され，あいにくの雨天にもかかわらず，例年どおり地域の方々がたくさん来てくださり，地域と密着した大学であることをものがたっていました。学生たちの日頃の学習ぶりや本学のことに多くの関心をもっていてくださることの証拠で，大変にありがたいことでした。

講師にお招きした名物アナウンサーの本名氏は，参加者をたくみに引き込みながら，発音のしかた，早口言葉の練習，ニュースの原稿読みなど実践を踏まえながら，アドバイスをしてくださり，話し方の基本を学ぶことができました。日頃は表面的な華やかさばかりが印象付けられているアナウンサーの真の実力を見せられた感じがしました。

２回目は絵本の読み聞かせが中心で，参加者は日頃から読み聞かせ活動をなさっている熱心な方が多く，充実した講座でした。

この講座を通じて，人にわかりやすく伝えるにはどのようなことがポイントになるのか教えていただきましたが，われわれ教員にこそ必要な講座ではないかとの思いを強くしました。

（コミュニケーション障害学科　友定　賢治）

## 今後の講座紹介

### 出前講座

生活習慣病を始めとする疾病の一次予防は，我々医療系学域の最初に着手することです。出前で住民の中に活動できる機会を得られ大変有意義なものとなりました。次年度に向け，さらに充実したものに育てたいと意気込んでいます。（三原地域連携推進協議会地域交流部会長　小山　矩）

| 日時 | 会場 | 講演内容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 11/14（火） | 大和保健福祉センター | 知って得する軽運動 | 大塚　彰 |
| | | 心と体の健康チェック | 古山千佳子 |
| 12/4（月） | 久井保健福祉センター | 本当は怖い膝・腰の痛み | 沖　貞明 |
| | | 生きがいづくりのすすめ | 西上　忠臣 |
| 12/12（火） | 本郷生涯学習センター | 足と靴の健康科学 | 金井　秀作 |
| | | 笑いの効用<br>～生活を振りかえる～ | 西田　征治 |

### 学生ボランティア活動

三原キャンパスでは，三原地域連携推進協議会，三原市社会福祉協議会との連携のもとで三原市内の高齢者自助グループ「ふれあい・いきいきサロン」に本学の学生をボランティアとして派遣しています。現在，学生約50名がボランティア登録をしており，現在までで３ヶ所のサロンに約30名が支援を行っています。活動内容はレクリエーション，おしゃべり，昼食の手伝いをしています。学生にとっても，実践の中で学んだことが生かされたり，より必要な知識が何であるかがわかったりと教育にもこのサロン活動での支援が役立っています。（作業療法学科　西上　忠臣）

## 第４回 脳をみるシンポジウム in 三原『認知症克服への挑戦』

今回は，認知症の病態や治療，最近の知見や具体的取り組みにまで迫る講演会を企画しました。

産学官連携して地域社会で知識を共有することによって，認知症克服に一歩でも近づきたいと考えています。どなたでも御参加いただけますので，お気軽にお申し込みください。

【日　　時】平成19年2月17日(土) 13:30～16:30
【場　　所】三原リージョンプラザ（三原市円一町二丁目1-1）
【定員・参加費】400名・500円（学生無料）
【申 込 方 法】本キャンパス総務課内「学術大会」宛に①氏名、②職業、③連絡先をご連絡ください。
【申　込　先】電話:0848-60-1120　FAX:0848-60-1134　E-mail:mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp

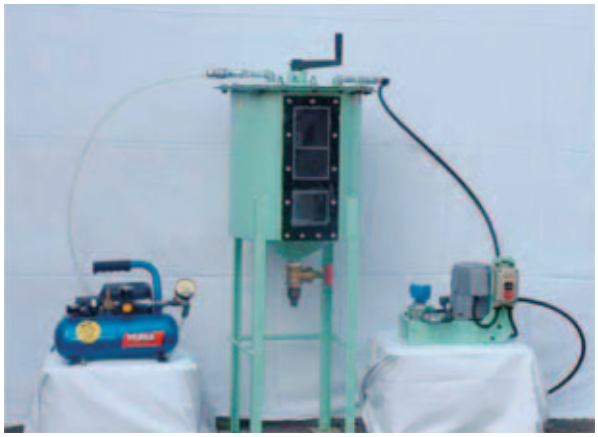
●プログラム

『認知症なんてこわくない－認知症とはどんな病気か？－』　広島大学名誉教授・洛和会京都臨床治験センター所長　中村　重信
『生活リスクとつきあう－認知症をもつ人々とリスクコミュニケーションの試み－』　広島大学大学院保健学研究科教授　宮口　英樹
『アルツハイマー病治療薬開発への夢を追って』　京都大学大学院薬学研究科教授　杉本　八郎

# 地域自治体との連携による研究成果 第１号

本学生命環境学部江頭直義教授と三苫好治助教授の共同研究により開発された「天然鉱石（滑石）を利用した油分吸着技術」が，広島TLO（技術移転機関）から，庄原市の長岡鉄工建設株式会社に技術移転されることになりました。

平成16年２月に特許出願もなされたこの技術は，平成17年度から「庄原市県立広島大学研究開発助成事業」による補助金の交付を受けています。技術を活用した装置の実用化に向け，２年間にわたり研究開発が続けられてきました。製品化は目前に迫っており，まさに産官学の連携によるマッチングの成果といえるものです。



油分除去装置

地域連携センターでは，地域等のニーズ把握と本学が有する技術シーズをマッチングさせて研究開発に取り組み，より多くの成果を出すことができるよう，その推進に努めていきたいと考えています。

## ■ビジネスマッチングフェアに出展

2006年９月７日（木），広島県立広島産業会館西展示館において，「第３回ひろしまビジネスマッチングフェア2006」が開催されました。このフェアには，企業・支援機関などのほか，近隣の大学から研究シーズの出展があり，それぞれブースを構えて各大学の研究をPRしました。

本学は２ブース分の展示スペースにおいて，各学部を代表する13点の研究シーズ紹介のパネルを展示しました。本学ブースへの来場者は約50人，技術相談を受けた件数は９件でした。

**◆このほど，地域連携センター・リーフレット（和文・英文），および県立広島大学研究者紹介名簿を発行しました。最寄りのセンターにお問い合わせいただき，ぜひご活用ください。**

## 編集後記

センター報第４号をお届けします。編集をローテーションで行うこととなり，はじめて庄原キャンパスが担当しました。今号では，研究シーズのマッチング，自治体との包括協定のほか，各キャンパスでの様々なイベントや研究の様子を紹介しています。

新しい年を迎えました。これからも産業界や地方自治体との連携にとどまらず，地域の皆様との接点を大切に，大学を一層身近に感じて頂けるよう発信を続けていきたいと考えています。どうか皆様の声をセンターまでお寄せください。引き続きご協力とご支援をよろしくお願いします。（TU）


## 編集発行

**県立広島大学庄原地域連携センター**

〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地
電話（0824）74-1704／E-mail：gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp
（編集担当　馬本　勉，上水流久彦）


## 各キャンパス問合せ先

**県立広島大学地域連携センター**

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目１番71号
電話（082）251-9534／E-mail：renkei@pu-hiroshima.ac.jp

**県立広島大学三原地域連携センター**

〒723-0053 広島県三原市学園町１番地の１
電話（0848）60-1200／E-mail：mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp